

<執筆要領>

2024年3月1日改訂

原稿を投稿される方は、本執筆要領に従い、ご執筆ください。

1. 使用言語

使用言語は原則として日本語または英語とし、必要に応じてそれ以外の言語での投稿も認めます。

2. 原稿の種類と制限文字数

SFCジャーナルは日本語と英語が混在する雑誌であるため、空白も含めた英文字数(characters)に換算した文字数制限を設けています。主に日本語で書かれた領域については、日本語の文字数を2.5倍に換算してください(日本語12,000文字ならば30,000 charactersに換算)。研究論文、総説・レビュー論文、実践報告は最大50,000 characters、研究ノートは最大30,000 characters、書評・学会動向は最大15,000 charactersとします。これらの文字数には本文、図表、脚注、参考文献を含みます。1つの図もしくは表の最大サイズは、タイトルと説明文が占める範囲も考慮した上で、縦25 cm、横17 cmが最大のサイズとなります。このとき、A4判の1ページを、その図もしくは表で全て利用することになります。この場合、その図もしくは表は5,000 charactersのスペースを使うものとして換算してください。

文字数のカウント例

研究論文のカテゴリに投稿された原稿において、日本語で書かれた領域が 12,000字、英語で書かれた領域(要旨と参考文献など)が7,000 characters、ページの全体を占める図や表(5,000 charactersに相当)が1枚、ページの半分を占める図や表(2,500 charactersに相当)が3枚ある研究論文の場合は、以下のように換算されます。

$$12,000 \times 2.5 + 7,000 + 5,000 \times 1 + 2,500 \times 3 = 49,500 \text{ characters}$$

合計が50,000 charactersを上回っていないので、この場合は文字数制限の対象にはなりません。

原稿の種類、内容、および制限文字数は、表1の通りです。制限文字数には図表、脚注、参考文献等を全て含みます。

表1 原稿の種類と制限文字数

カテゴリ	内容	最大文字数※
a) 研究論文	実証的または理論的研究の成果として学術的価値が高く、かつオリジナリティを有するもの。※本カテゴリに掲載された論文のみ、慶應義塾大学の政策・メディア研究科の博士要件の充足のために認められています。	半角 50,000字 全角 20,000字
b) 総説・レビュー論文	表題の分野に関する重要かつ適切な複数の既存文献に基づいて総合的な評価を行い、過去の経緯、文献間の比較、評価などを総合的に論じ、著者のオリジナルな考えや見方を提示するもの。	半角 50,000字 全角 20,000字
c) 実践報告	学術上の意義が大きい実践的な活動や新しい試み(実践)について、単なる記述ではなく、評価・検証を行った報告文であり、他の活動の参考になる価値を有するもの。	半角 50,000字 全角 20,000字
d) 研究ノート	研究の中間報告または予察的な研究報告を行うもの。「a) 研究論文」のカテゴリに投稿するには不十分であるが、記録する価値があるものなどは対象となる。	半角 30,000字 全角 12,000字
e) 書評・学会動向	書評は当該分野において注目されている文献をとりあげ、その内容について批判や紹介をするもの。学会動向は、当該分野の潮流や今後の展望について解説するもの。	半角 15,000字 全角 6,000字

注 文字数には本文、図表、脚注、参考文献等を含みます。全角と半角が混在する原稿は全角の文字数を2.5倍して半角の文字数と足し合わせ、その上で半角にて示された最大文字数を超過していないことをご確認ください。参考文献の上限は原則50件とします。ただし、レビュー論文の場合はこの限りではありません。その他、何らかの理由で参考文献が多くなる場合には、編集部にて予めご相談ください。

3. 基本構成

原稿はA4縦サイズ、フォントサイズは全て12 ptでご作成ください。次の順に作成し、表紙から文献まで通しページ番号を下中央に、および通し行番号を左側につけてください。ページ番号および行番号の追加はMS-Word等

の機能を使ってください。行番号はMS-Wordの場合、「ページレイアウト」もしくは「レイアウト」のタブより「行番号」を選択し、表示されるリボンの中から「連続番号」を選択することで表示できます。(MS-Wordのバージョンにより方式が異なることもあります)。

<p>基本構成</p> <p>1-2ページ目(表紙)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 原稿の種類: a)研究論文、b)総説・レビュー論文、c)実践報告、d)研究ノート、e)書評・学会動向より選択してください。 ➤ タイトル: タイトルは簡潔に内容を表すものにしてください。日本語と英語の両方とも記載してください。ただし本文が英語以外のときは、本文使用言語、日本語および英語タイトルを記載してください。 ➤ 著者名: 電子ファイルで提出するMS-Wordファイル原稿では、著者全員の氏名、所属機関、職位を日本語および英語で記載してください。PDFファイルならびに別途、ハードコピーで提出する原稿については、著者名、所属名、職位、謝辞を含まないものにしてください。 ➤ 抄録: 日本語250字以内と英語90単語以内の2種類を掲載するため、両方を記載してください。英語を母国語としない人は、英語は必ず英文校正業者か英語が母国語の専門家による校閲を受けてください。同じく、日本語を母国語としない人は、日本語は必ず学術雑誌への論文執筆経験のある日本人による校閲を受けてください。 ➤ キーワード: 抄録の中に含まれる単語の中から、日本語と英語のそれぞれについて3から5個を記載してください。 <p>3ページ目以降(本文)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 匿名による査読を行うため、本文中で著者が推測されるような表現は避けてください。もし、それが避けられない場合、提出するPDF版のファイルでは、本文中で著者が推測される表現に相当するところは黒塗りにして査読者から読めない状態にしてください。黒塗りが多く、査読が不可能と編集部で判断した場合には投稿を取り下げてください。 ➤ 本文例 <ol style="list-style-type: none"> 1 緒言(はじめに、など): 背景と目的を記述してください。 2 方法: 研究対象や方法などを具体的に記述してください。 3 結果: 研究結果は、図や表を用いて記述してください。 4 考察: 結果と過去の文献等を参考にして導かれる考えや論理を記述してください。 5 結論(おわりに、など): 研究結果から導かれるものを記述してください。 <p>※考察の中に結論を含めても構いません。</p> <p>※各項目の小節は、3.1、3.2、小節内の項は、3.1.1、3.1.2のように記してください。</p> <p>※3.1.1.2といったように4桁に至る項分けはご遠慮ください。</p> <p>※上記は研究論文の一例であり、この限りではありません。しかし、緒言→方法→結果→考察→結論、という研究論文としての明確な流れを維持している原稿の方が、採択されやすいです。本のような書き方はできる限り避けてください。また、結論を考察に含めること、結果と考察をひとまとめにすること、などが可能です。つまり、緒言→方法→結果と考察という書き方でも認められます。</p> ➤ 謝辞は必要最小限の範囲で記載してください。提出するPDF版のファイルでは、謝辞から著者が容易に推測されるため、謝辞の内容が表示されないようにしてください。 ➤ 研究助成の有無および利益相反の開示について、投稿論文では、著者はその研究にバイアスをもたらす可能性のある全ての利害関係(金銭的・個人的関係)を開示することが求められています。利益相反に該当しない場合はその旨を記載してください。(例:利益相反に該当する事項はない) ➤ 脚注がある場合のみ、以下6に示す方法で、文末に本文中の番号と呼応する形で入れてください。 ➤ 参考文献は以下7に示す方法で、記載してください。
--

上記原稿に加えて、別添の用紙「KEIO SFC JOURNAL 記載事項記入用紙」にも必要事項をご記入の上、必ず原稿とともにお送りください。記載事項記入用紙は以下のサイトの下部においてダウンロードできます。
URL: <https://gakkai.sfc.keio.ac.jp/journal/offer/jp/>

4. 使用文字・フォント

・フォントは日本語を主とする原稿の場合はMS明朝もしくはMSP明朝(英数字についてはTimes New Roman)をご利用ください。英語を主とする原稿の場合はTimes New RomanあるいはCenturyを利用してください。全ての領域においてフォントサイズは12 ptを基本としてください。

- ・原稿内の日本語部分で用いる句読点は原則として「、」「。」を使用してください。ただし、数学記号や外国語表記が多いなど、やむを得ない事情がある場合は「,」「.」(全角コンマと全角ピリオド)を利用していただくことも可能ですが、「、」「。」と「,」「.」の両方の方式が混ざった書き方はできません。句点として半角ピリオドや半角スペースを、読点として半角コンマや半角スペースを用いることは認められません。
- ・新字、新カナを使用してください。本誌はヨコ組みのため、句読点、カッコ、コロンなどはヨコ組の表記になります。
- ・数字は、半角アラビア数字を使用してください。

5. 図表の表記

- ・図については図番号とタイトルを図の下に、表については表番号とタイトルを表の上に記載してください。
例：日本語の場合「図1 ○○○○」「表1 ○○○○」
英語の場合「Fig. 1 ○○○○」「Table 1 ○○○○」
- ・図表を他文献からの引用また転用する場合は、必ず出所を明確に示してください。
- ・記載例:「渡邊(2002) p.76図8より転用」
- ・採録が決定した場合には、以下の提出も求められます。
写真※: デジタルカメラで撮影したものであれば、解像度350 dpi以上のオリジナル写真データを標準的な画像フォーマット(JPEG)のファイルとして、ご用意ください。
線画※: 線画を作画したオリジナルのCGソフト(AI, PPT等)から直接EPSファイルに変換したファイルをご用意ください。
表: スキャン画像ではなく、作表した際に使用したソフト(Excel等)のファイル形式でご用意ください。
※写真は点で構成されたグラフィックスを、線画は線で構成されたグラフィックスを指します。

6. 注 (もしくは註)

できる限り、注もしくは註は用いない形で、つまり全て本文中に記載する形で原稿をご執筆ください。構成上、注もしくは註が必要な場合は、本文該当箇所に上付きで、1)、2)、3)と番号を付け、本文の最後に通してそれらの説明文を記述してください。なお、KEIO SFC JOURNALでは本文中で文献等を引用する時は、数字による引用を認めていませんので、ご注意ください(文献を数字で引用された原稿については、提出された時点で訂正が求められます)。

7. 文献の引用方法・文献リスト

文献引用の方法および文献リストの表記方法は、以下のようになっています。

■文中での文献引用の方法

他の文献等の文章を直接引用する場合は、句読点を含めて一字一句正確に書き写し、引用部分がわかるようにしてください。

- 例) 文章の中で単語として引用する場合
単著なら: 佐藤(2001)によると
二人なら: 佐藤・田中(2001)によると
三人以上なら: 佐藤ら(2001)によると
- 例) 文章の末で引用する場合
単著なら: …である(佐藤, 2001)。
二人なら: …である(佐藤・田中, 2001)。
三人以上なら: …である(佐藤ら, 2001)。

引用する際にページを指定する必要がある場合は、文章の末で引用してください。かつ、書き方は以下のようになっています。

- 例) 単ページなら: …である(佐藤ら, 2001, p.25)。
- 例) 複数ページなら: …である(佐藤ら, 2001, p.25-30)。

同じ著者の同一年の文献を複数引用するときは、発行年にアルファベットを付けてください。

- 例) 藤沢(2010b)によれば…
- 例) 神奈川県においてそれが最も多い場所はSFCである(藤澤, 2010b)。

外国語論文から引用する場合は、アルファベット表記のままにしてください。

- 例) 単著なら (Fukuzawa, 2004)

- 例) 二人の共著なら (Fukuzawa and Fujisawa, 2018)
 例) 三人以上なら (Fukuzawa et al., 2018)
 例) 二件ある場合は (Fukuzawa 2004; Okubo et al., 2020) ※セミコロンでつなげる
 ※Fukuzawa Yの「Y」のようにFirst Nameなどの頭文字(イニシャル)は記載しないでください。

既に日本語訳されている文章からの引用の場合、外国人名は、以下の方式で表記してください。

- 例) カタカナ表記名 J.ピアジェ (J. Piaget) (括弧内は表記可能な場合)
 例) 漢字表記名 毛沢東

特に人文科学や社会科学系の論文においては、学術上、論文の展開上重要と思われる人名は、原則としてカタカナと原語での並列表記となりますが、すでに一般的となっている人名、あるいは論文の展開上特に重要ではない人名については、併記は不要です。

■文末の参考文献リストの書き方

日本語文献は著者名で五十音順に、外国語文献は著者名(苗字)でアルファベット順に掲載します。文献ごとの表示方法を以下に記しますので、必要項目を順番どおりに並べて入稿してください。共著者の記載は、字数に制限がある関係上、最大5人までの範囲で任意とし、6人以上の場合は6人目から最終著者をまとめて「他」「et al.」で省略してください。ただし、著者数が6人丁度の場合は全著者名を記載しても構いません。

- 例) Fukuzawa, Y., Okubo, T., Saigo, T., Sakamoto, R., Ito, H., et al.
 例) 深澤譲、大久保俊哉、西郷孝夫、坂本隆太郎、伊東秀人、他

①雑誌、ジャーナル

日本語は、著者名(発行年)「論文タイトル」『ジャーナル名』巻(号), 掲載ページ数、の順番、外国語も順序は同様ですが、表記については論文タイトルのカギ括弧(「」)をダブルコーテーション(“ ”)に、ジャーナル名は括弧で囲まらずにイタリックで表記してください。記載例は以下に示します。

a) 日本語論文の記載例

- 秋山美紀、武林亨(2013)「在宅医療の担い手としての診療所機能の現状と効率的な療養支援のための地域連携の課題」『医療と社会』23, p.3-11.
 佐藤健太郎、鈴木美咲、高橋拓真、田中結衣、伊藤 翔太、他(2017)「運動不足による生活習慣病の発症リスクとその予防策」『運動計測学会誌』35, p.14-7.

b) 外国語論文の記載例

- Yamamoto, H. and Nakamura, K. (2013) “Nutritional Intake Guidelines for Preventing Dementia in the Elderly”, *J. Health Sci. Res.*, 212, p.3189-201.
 Kuroda, H., Inui, M., Sugimoto, K., Hayata, T., Asashima, M. (2002) “Axial protocadherin is a mediator of prenotochord cell sorting in *Xenopus*”, *Dev. Biol.*, 244, p.267-77.
 Ohtani, S., Betts, M., Freeman, F., Hernández, T., Smith, W. D., Rojas, M. (2002) “The development of batting improvement methods necessary to achieve a 50-50 performance”, *J. Baseball*, 125, p.23-110.
 Kita, H., Nakamura, K., Minami, H., Inui, M., Sugimoto, K., et al. (2020) “The Impact of Green Environments on Physical and Mental Health: A Systematic Review”, *Persp. Environ. Health*, 345, p.8-25.
 ※英文雑誌名に正式な短縮名がある場合は、短縮名でご記載ください。
 ※巻は必須ですが、号については原則省略してください。
 ※必ず号も記載する必要がある場合は、24巻1号の場合、24(1)とご記載ください。

②書籍

a) 日本語図書の記載例

- 清水唯一朗(2013)『近代日本の官僚- 維新官僚から学歴エリートへ』中央公論新社。
 山本龍彦、清水唯一朗、出口雄一編(2016)『憲法判例からみる日本』日本評論社。

b) 日本語図書の分担執筆論文の記載例

- 中澤仁(2016)「プラットフォーム設計の思想」村井純監修『価値創造の健康情報プラットフォーム』慶應義塾大学出版会. p.65-94.

c) 外国語図書の記載例

Shiratori, R., Arai, K., Kato, F. (2004) *Gaming, simulations, and society: Research scope and perspective*, Springer-Verlag.

d) 訳書の場合

グリーン, L.W., クロイター, M.W., 神馬征峰訳(2005)『実践ヘルスプロモーション-PRECEDE- PROCEEDモデルによる企画と評価』医学書院. p.10-8.

③ウェブサイト等からの引用

ウェブサイト等の内容は時間と共に変更・削除される可能性がありますので、引用は必要最小限にしてください。既にアクセスできないウェブサイトは絶対に引用しないでください。引用する際には、引用内容が明確に記載されているURLを示し、最終的にアクセスして、正しく表示された年月日を括弧内に記載してください。URLが100文字を超える場合には、BitlyやTinyUrlなどを利用して短縮化したURLを用いてください。書籍とウェブサイト双方に同一の内容がある場合は、必ず書籍を優先してください。できる限り、投稿の直前にウェブサイトにアクセスして、正しく表示されることを確認してください。正しく表示される場合にはアクセスの日付は原則、投稿直前の日付にして下さい(原稿を執筆している段階でアクセスした時期を明示する必要がある場合などはその限りではありません)。正しく表示されない場合には、できる限り、引用しないようにしてください。再投稿となった場合も、同様をお願いします。

a) 掲載文書発行年がわかる場合

厚生労働省(2008)「主な施設基準の届出状況等について」<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2008/07/dl/s0716-3c.pdf> (2009年2月20日アクセス)

b) 掲載年が不明な場合

厚生労働省「健康日本21(第二次)」<http://tinyurl.com/yc6cx84k> (2017年12月1日アクセス)